

# 「人々」「人ども」「人たち」の文法的性質

——『源氏物語』を資料として——

高山善行

## 1. はじめに

本稿では、中古語「人々」「人ども」「人たち」の文法的性質に焦点を当て、それらの共通点や差異について考えてみたい。2. では研究史、研究の目的について、3. では資料と方法について述べる。4. ではそれら名詞句の前後要素についての記述を行う。5. では後接助詞の記述を行い、6. で注意すべき用法を挙げる。

## 2. 研究の目的

日本語文法史の研究において、名詞の文法的側面についての記述は未開拓な部分が多く、調査・分析を積み重ねていく必要がある。今回は中古語の名詞句「人々」「人ども」「人たち」を取り上げ、文法的性質の記述分析を試みる。これらの名詞句については、これまで、接尾語の研究、重複語の研究のなかで取り上げられてきてはいるが、文法的性質については明らかでない。<sup>(1)</sup>これらは複数性を示す名詞句であり、文法と数との関係を考える上で興味深いものである。当面は様々な観点から名詞句の文法的特徴を観察し、相互の共通性・差異について見ていくことになる。そうした基礎的研究によって、名詞句の記述を押し進めるとともに、新しい言語事実の掘り起こしを目指したい。<sup>(2)</sup>

## 3. 資料・方法

まず、本稿の資料・方法について述べておく。本稿では、『源氏物語』（日本古典文学全集・小学館）を資料とする。挙例の際の、本文・現代語訳は同書による。用例調査の結果、「人々」「人ども」「人たち」の用例数は、表1のとおりである。ただし、「人々」については、桐壺～花宴巻のみを調査範囲とする。

表1 用例数

| 人々 | 人ども | 人たち |
|----|-----|-----|
| 71 | 18  | 2   |

以下では、表1で示した用例を対象として、記述分析を進める。

次に、分析の方法について述べる。先述のとおり、これらの名詞句の文法的性質については手つかずである。どういう観点から文法的特徴を分析すればよいか探っていく必要がある。

そこで、本稿では、複数の観点からの観察を試み、分析の有効性について考えてみることにする。

#### 4. 前接要素

##### 4. 1 前接要素の実態

まず、名詞句の前接要素について見ていく。前接要素は、(1) 指示詞、(2) 形容詞、(3) 動詞、(4) 名詞、(5) 前接要素なし、といったタイプに整理される。それぞれの用例を挙げておこう。

##### (1) 指示詞

a なほこれこそは、かの人々の捨てがたくとり出でしまめ人には頼まれぬべけれ、1-167

(やはりこれこそ、あの品定めの人々が、見捨てがたいものとして、選び出した実のある女としては、必ず信頼できるはずだ…)

b 姫宮、「おのがじしは、この人どもも、我あしとやは思へる。…」5-270

(姫宮、「この人々にしてみても、めいめいの心では自分が醜いなどと誰も思っていない」)

##### (2) 形容詞

a 身にしみて若き人々思へり。1-317

(ぞくぞくするほどすばらしいと、若い女房たちは心を動かされる。)

b 南の町も通して遙々とあれば、あなたにもかやうの若き人どもは見けり。<sup>(3)</sup>3-199

(馬場は南の町まで通してずっと開けているので、あちらでもこうした若い女房たちは見物したのである)

c 例のものめでする若き人々 (= 女房) は、「なほことなりけり」など言ふ。5-61

(例によってすぐに夢中になる若い人々は、<sup>(4)</sup>「やはり特別でいらっしゃること」などと言う)

##### (3) 動詞

a さぶらふ人々の泣きまどひ、上も御涙の隙なく流れおはしますを、…1-100

(おそばの人々が泣きまどい、帝もとめどなく落涙しておいでになるのを、…)

b かくてさぶらふ人どもも、うれしきことに思ひたまへいそぎ、<sup>(5)</sup>…6-222

(このようにしてお仕えしている私どももうれしいことと存じまして、その支度をしておりまし、…)

##### (4) 名詞 (名詞+の+名詞)

a 御方々の人々、世の中におしなべたらぬを、選りとのへすぐりてさぶらはせたまふ。1-126

(君と姫君とそれぞれにお仕えする女房たちは、並み一とおりではないのを選びすぐってお仕えさせなさる。)

b この殿の人どもも、また同じさまにからき事のみあれば、世の中はしたなく思されて籠りおはす。2-130

(源氏のお邸の人々も、やはり同様にづらいことばかりがあるので、君も世の中をおもしろくなくお感じになって、ひきこもっておいでになる)

##### (5) 前接要素なし

a (源氏)「暑きに」と、にがみたまへば、人々笑ふ。1-168

(「暑くてしょうがないのに」と、苦い顔をなさるので、女房たちは笑う。)

b 鳥も鳴きぬ。人々起き出でて、…(供人)「いといぎたなかりける夜かな」、(供人)「御車引き出でよ」など言ふなり。1-179

(鶏も鳴いた。お供の人々が起き出して、)

調査結果を整理すると、表2のようになる。

表2 前接要素

|     | 人々     | 人ども       | 人たち  |
|-----|--------|-----------|------|
| 指示詞 | さるべき 4 | この        |      |
|     | かの 2   |           |      |
|     | この     |           |      |
|     | かかる    |           |      |
| 形容詞 | 若き 3   | 若き 5      | 若き 2 |
|     | 頼もしき   | 幼き        |      |
| 動詞  | さぶらふ 7 | さぶらふ      |      |
|     | ある 2   | ある        |      |
|     | 思ふべき   | 使ひ馴らしたまひし |      |
|     | 憎みたまふ  | 田舎びたる     |      |
|     | 参る     | (名のり)する   |      |
|     | まだ見ぬ   |           |      |
|     | とまりにし  |           |      |
|     | 心得たる   |           |      |

|      |                  |             |  |
|------|------------------|-------------|--|
|      | 心知らぬ             |             |  |
|      | ～と思ひきこゆる         |             |  |
| 名 詞  | 御方々の             | 御庄の         |  |
|      | 母御息所の御方の         | この殿の        |  |
|      | 内の               | 殿の          |  |
|      | 殿の内の             | 古代の         |  |
|      | 御迎への             | こなたかなたの御送りの |  |
|      | 上の               | 乳母などやうの     |  |
|      | こなたかなたの          |             |  |
|      | 命婦、中納言の君、中務などやうの |             |  |
| 前接なし | φ                | 33          |  |

※用例が1例だけの場合は前接要素だけを記す。

#### 4. 2 前接要素とはだか照応

表2を用例の有無の観点で整理したのが表3である。「人たち」は全2例であり、×が多いのは当然であるが、参考までに挙げておく。

表3 前接要素の有無

|     | 人々 | 人ども | 人たち |
|-----|----|-----|-----|
| 指示詞 | ○  | ○   | ×   |
| 形容詞 | ○  | ○   | ○   |
| 動 詞 | ○  | ○   | ×   |
| 名 詞 | ○  | ○   | ×   |
| な し | ○  | ×   | ×   |

表2・表3より、「人々」は「前接要素なし」が多いが、「人ども」「人たち」は全くないことがわかる。つまり、「人々」は単独で用いられるが、「人ども」「人たち」は前接要素なしには用いることができないのである。この差異は、一体何を意味するのだろうか。

ここで思い起こされるのは、金水（1986）が指摘する「はだか照応」の現象である。

32 男は何も言わずに内ポケットから拳銃を取り出すと、続けざまに5回引き金を引いた。

33 #その日も仕事を終えて7時ごろ家に戻ると、玄関先で私を待っている人がいた。  
人 は笑いながら私に近づき、握手を求めた。

32は普通の文として許容することができるが、33の第二文の「人」を第一文の「玄関先

で私を待っている人」と照応していると解釈することは難しい。その意味で用いるならば、どうしても「その人」のような指示詞が必要となる。

（金水1986より）

以上は現代語の記述であるが、はだか照応は、古典語においても興味深い。本稿で述べた、名詞句の前接要素の有無は、それらが「はだか照応用法」をもつかどうかという問題である。今後、掘り下げてみたい。

#### 4. 3 前接要素と不定語

次に、前接要素と不定語（疑問詞）との関係について見ていく。事実を先に述べれば、表2で示すように、「人々」「人ども」「人たち」は、すべて前接要素に不定語を含まない。これを「人」の場合と比べてみよう。

(6) a いかなる人

b \*いかなる人々/\*人ども/\*人たち

ちなみに、「いかなる人」は『源氏物語』中に15例ある。

複数形の前接要素が不定語を含まないのは、現代語でも同様である。不定語「どんな」「どういう」は複数形で使いにくいようである。

(7) きのうのパーティーでは、どんな／どういう／何という人が来たの？

?どんな／どういう／何という人々が来たの？

\*どんな／どういう／何という人たちが来たの？

あえて不定語を使うのであれば、人名詞句を用いず、以下のようになるだろう。

(8) きのうのパーティーでは、誰／誰々が来たの？

不定語は数量詞的な性質をもつから、本稿で取り上げる複数性の名詞句とは数の面でつながるものと思われる。不定語との関係については、今後さらに掘り下げてみたい。



## 5. 後接要素

名詞句の後接要素について観察する。後接要素の実態は、表4のとおりである。

表4 後接要素

|      | 形式 | 人々 | 人ども | 人たち |
|------|----|----|-----|-----|
| 係助詞  | は  | 3  | 3   | 1   |
|      | も  | 11 | 5   |     |
|      | ぞ  |    | 1   |     |
|      | なむ |    | 1   |     |
| 格助詞  | に  | 4  | 1   | 1   |
|      | の  | 8  | 2   |     |
| 副助詞  | など | 1  |     |     |
| 助動詞  | なり |    | 1   |     |
| 後接なし | φ  | 43 | 4   |     |

※空欄は用例無し。

### (9) 係助詞

- a 例の、人々はいぎたなきに、一所、すずろにすさまじく思いつづけられると、…1-188

(例によって、お供の人々はぐっすり寝込んでいるのに、源氏の君おひとり、ただ無性におもしろからぬ思いでいらっしゃったが、…)

- b (源氏)「～また、さるべき人々もゆるされじかしと、かねて胸痛くなん。…」1-200  
(「また、あなたのほうのまわりの方々もお許しになるまいと、もういまから胸が痛みます」)

- c (大納言の君)「身投げたるなめりとてこそ、乳母などやうの人どもは、泣きまどひはべりけれ」と聞こゆ。6-247

(「身投げをしたのだらうということで、乳母などといった人々は泣き迷っておいりましたそうでございます」)

- d ある人どもも、よからぬこと何やかやと次々に従ひつつ言ひ出づるに、…5-230  
(まわりの人々までが、つまらない縁談の取次をあれこれと頼まれては次から次へともち出してくるようなので、…)

- e (薫)「ありつかず、と若き人どもぞ思ふらんかし」6-245  
(「似つかわしくないと若い人たちは思うことでしょうか」)

- f 召人とか、憎げなる名のりする人どもなむ、数あまた聞こゆる。3-172

(召人とか、自分で名のっているかわいげのない人たちが大勢いると聞いています)

### (10) 格助詞

- a かのまだ見ぬ人々に、ことごとしう言ひ聞かせつるを、…1-285

(君はあのまだ自分の姿を見たことのない人々に、僧都が大げさに言い聞かせていたのを、…)

- b なほこれこそは、かの人々の捨てがたくとり出でしめ人には頼まれぬべけれ、と思すものから、…1-167

(やはりこれこそ、あの品定めの人々が、見捨てがたいものとして、選り出した実のある女としては、必ず信頼できるはずだとお考えになるものの、…)

- c (薫)「田舎びたる人どもに、忍びやつれたる歩きも見えじとて口固めつれど、…」5-482

(「田舎じみた人々に、わたしの忍んでやつてやってきたところを見られたくないと思って口止めをしておいたのですが、…)

- d 御方々の若き人どもの、我劣らじ、と尽くしたる装束容貌、花をこきまぜたる錦に劣らず見えわたる。<sup>(9)</sup>3-160

(御方々の若女房たちが、われ劣らじとひどく気をつけている装束や容貌が、花をとりまぜた錦にひけをとらぬくらいに美しく見わたされる)

### (11) 副助詞

- (帝)「この見ゆる女房にまれ、またこなたかなたの人々など、なべてならず、なども見え聞こえざるを、…」1-407

(「この辺にいる女房にせよ、また、あちらこちらの女たちにせよ、とくに打ち込んでいるなどともみえぬし、その噂もないようだが、…)

### (12) 助動詞

- 昔は、ただならぬさまに、使ひ馴らしたまひし人どもなれど、…4-60<sup>(10)</sup>

(この二人は、昔は普通の女房たちとは違って、いつも殿のお側勤めをおさせになっていらっしやった人々であるけれども、…)

### (13) 後接要素なし

- a 西面の格子そそき上げて、人々φのぞくべかめり。1-180

(西面の格子をそそきと上げて、女房どもがのぞくらしい。)

- b ここかしこの若き人どもφ、口惜しうさうごうしきことに思ひて、言ひなやましける。<sup>(16)</sup>5-58

(あちこちの若い女房たちは、残念でものたりないことに思って、何かと言いかけては困らせているのであった)

表4から以下のような傾向が見られる。

- |      |    |                          |
|------|----|--------------------------|
| ①係助詞 | …… | 「や」「か」「こそ」がない。           |
| ②格助詞 | …… | 「が」「を」がない。               |
| ③副助詞 | …… | 1例のみ。                    |
| ④助動詞 | …… | 1例のみ(もともと後接可能なのは「なり」のみ)。 |

ここで注目したいのは、疑問系係助詞「や」「か」が後接しない点である。4.3とも関連するが、「人々」「人ども」「人たちは」、疑問文で用いられにくい。これらの名詞句が疑問表現と相容れにくい理由については、今後掘り下げてみる必要がある。

## 6. 注意すべき用法

その他、注目すべき用法として以下のようなものがある。

### 1) 呼びかけ用法

中古語「人々」は、呼びかけ用法をもっている。「人ども」「人たちは」はこの用法をもたない。現代語「人々」にも呼びかけ用法は認められない。

(14) a (源氏)「～人々近うさぶらはれよかし」1-318

(「どなたもみな近くにお寄りなさい」)

b 「皆さん、／＊人々、近くにお集り下さい」

現代語の場合、眼前の複数の人に対して「人々」では呼びかけにくく、「皆さん」を用いるのが一般的であろう。日本語の呼びかけ表現については、尾上(2001)「呼びかけの実現—言表の対他意志の分類」で体系的整理がなされており、参考になる。名詞句の種類と呼びかけ用法との関係は興味深い問題といえる。

### 2) 述語用法

「人ども」には、1例だけが述語用法がある。

(再掲12)～昔は、ただならぬさまに、使ひ馴らしたまひし人どもなれど、年ごろはこの御方にさぶらひて、みな心寄せきこえたるなめり。4-60

### 3) 相互動作

相互動作を表す用法は、「人々」「人ども」の両方に見られる。

(15) a 心知らぬ人々は、(女房)「なぞ。御独り笑みは」と、とがめあへり。1-375

(事情を知らない女房どもは、「何ですか、あのひとり笑いは」と、詮索しあっている)

b 「人のもの言ひを、さすがに思しとがむるこそ」など、古代の人どもは、ものめでをしあへり。6-297

(「人のもの言ひを、やはりすかさずお咎めだてなさるのですね」などと、古めかしい人たちは一同感じ入っている)

相互動作を表現することによって、個々の人が前景化することになる。<sup>(11)</sup>

## 7. おわりに

今回は、「人々」「人ども」「人たちは」の文法的性質について調べてみた。このような小規模な調査においてさえ、気づかれていなかった事実や分析の視点がいくぶん明らかになったかと思う。今後はさらに調査範囲を拡大して、観察を進めたい。

## 注

- 1 高山(2005a)では、「人々」「人ども」「人たちは」を数概念の面から論じた。倉内(2006)は、『源氏物語』の「人々」の文法的性質について論じている。なお、高山(2005b)は名詞句の文法的性質の史的研究についての見通しを述べた。本稿には前稿と重なるところがある。
- 2 このように述べると、場あたりの印象を与えるかもしれないが、科学史を繙けば明らかであるように、実験的研究は多かれ少なかれ、試行的な性格をもつものである。
- 3 『源氏物語大成』により異文を示す。以下同じ。河「わか人」、別「わか人」
- 4 (青)「わか人たちは」肖、(河)「わかき人～は」、(別)「わかうとたちは」大、「わかき人たちは」西、「わかき人～は」保
- 5 (別)「人々も」宮保國
- 6 (青)「人々とも」横陽、(別)「わかうとも」大國、「わかき人々は」保
- 7 (別)「ある人は」横、「ある人々も」保
- 8 (別)「わかき人そ」宮國、「わかき人は」陽、「わか人ともそ」保
- 9 (河)「人々」、(別)「人も」御、「人々も」陽、「人そ」相、「人々」國
- 10 (別)「なれと」阿
- 11 高山(2005a)では、複数を表す名詞句における、こうした意味特徴を「個別性」と呼んでいる。

## 参考文献

池上嘉彦(2000)『「日本語論」への招待』(講談社)

- 石田秀雄 (2002) 『英語冠詞講義』 (大修館書店)
- 尾上圭介 (2001) 『文法と意味 I』 (くろしお出版)
- 金水敏 (1986) 「名詞の指示について」 (『築島裕博士還暦記念 国語学論集』 明治書院)
- 倉内恵 (2006) 「豊語名詞「人々」の研究」 (平成17年度福井大学卒業論文)
- 郡司隆男 (2001) 「日本語文法—多様な観点から—」 (『日本語文法』 1-1、日本語文法学会)
- 高山善行 (2005a) 「名詞のく数」概念をめぐって」 (『国語国文学』 44、福井大学言語文化学会)
- 高山善行 (2005b) 「名詞の文法的側面をめぐって」 (『国語と国文学』 82-11、東京大学国語国文学会)
- 玉村一郎 (1986) 「古代における和語名詞の豊語について」 (宮地裕編『論集日本語研究 (二) 歴史編』 明治書院)
- 仁田義雄 (1997) 『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して』 (くろしお出版)
- 蜂矢真郷 (1998) 『国語重複語の語構成論的研究』 (塙書房)
- マーク・ピーターセン (1988) 『日本人の英語』 (岩波新書)
- 山口明穂 (2004) 『日本語の論理』 (大修館書店)
- 山梨正明 (1995) 『認知文法論』 (ひつじ書房)

【付記】 本稿は、平成14-16年度学術振興会科学研究費 [萌芽研究] 「平安時代語における名詞句の基礎的研究」 (課題番号14651076、研究代表者：高山善行) の成果による。